

⑮

故本間覃山翁之碑

明治44年（1911）9月 建立

「建立者」伊藤友太郎 ほか

「題字・書」撰 小山内健三郎、書 斎藤主

【解説】

本間覃山（ほんまたんざん 1857～1909）は、師匠である小山内暉山（おさない きざん 1811～1894）と同様に明治時代の書家で、覃山の功績を顕彰するために建てられた石碑です。覃山の石碑は、師匠の暉山の隣に建てられることとなりますが建立の際に、「暉山翁の碑石は覃山翁碑石より高くする事」としており、師弟関係に配慮したとされています。

覃山が揮毫した石碑としては、廣田神社の社号標、大野稻荷神社の社号標などがあります。



【石碑に彫刻されている文字】

（前面）

故本間覃山翁之碑

（裏面）

覃山本間翁諱承淳旧弘前藩士葛西宇字兵衛之三男也出養同藩士本間豊作幼好書明治四年入小山内暉山翁門學書道研磨十餘年焉能探究筆道之奧秘工為八体暉山翁門人數百人素多善書稱上堂七人入室九人而受正脈衣鉢者實覃山翁也翁初住弘前市明治十八年有故移家于青森市以來至門學書者年多一年翁身在劇務中而諄々指導明治三十四年奉職本県師範學校擔任習字科傍又教校外之門生日夕勤勉熟誠不倦是以當時學翁者達數百人之多云明治四十一年際皇太子殿下東北啓行之日本縣之奉書無大小蠅集煩翁翁以夜繼日孜孜執筆能果其務蓋勤勉出天性也惜哉皇天不假年明治四十二年四月罹病歿享年五十三明治二十七年自暉山翁仙去以來翁獨能傳其遺法薰陶學生及學外生者茲二十餘年弟子數百人實可謂一代之名家也而為人恭遜誠實殊為所人敬慕云今歲當翁大祥忌知己門生及汲其流法者不能忘其交誼與薰陶乎茲建設一大碑欲伝翁之功德於無窮也使余撰其文夫追遠報恩之舉出人之至情民德之篤者也余深感其志不辭拙而應囑云爾

明治四十四年九月

小山内健三郎 撰
發起人 友人 伊藤 友太郎

斎藤 主 書
一戸 缶逸

長谷川 壽吉

高山 静

谷口 富太郎

高橋 吉治

山田 迪

秋鹿 見橘

齋藤 彌一

須藤 正実

門弟

瀧野沢 利助

杉沢 利助

平沢第助

門弟石工 土工

斎藤惣之助